

《別添2》

平成28年度 交通遺児友の会 書道コンテスト審査を終えて

【審査委員】

一般財団法人書海社 理事 ・ 日本書道家連盟 副会長
埴 雲峰

平成28年度ナスバ交通遺児友の会書道コンテストには、全国の404名の方から応募がありました。審査にあたっては、①書道の技術を目標にしたもの ②自分の希望を文字に表したもの ③アイデアを表現しようとしたもの などいろいろですが、作品にはそれぞれコメントが添えられており、その字を選んだ理由が書かれておりました。

前回の審査もご一緒させていただいた池田先生とは、今回も意見の違いは全くなく、審査は極めて円滑に行うことが出来ました。先ず、書道である以上書の基本となるトメハネが正確なことと、文字の構成が立派で見る人を惹きつける力を持っていることなどを中心に審査をいたしました。又、文字の良さにあまりとらわれず自分の心を伝えようとした作品、更に文字の形に工夫を入れて表現しようとした作品などがあり、筆づかいの上手さだけでは決められない作品もありました。それらの作品は、デザイン・アイデア賞として評価いたしました。

どの表現方法の作品であれ、長い間工夫と練習を重ねられた作品であり、その一点一点はそれぞれの輝きを持っており素晴らしい作品ばかりでした。

次回の書道コンテストに向けて、更に立派で感動の作品を目指して下さるのを楽しみにしております。

【審査委員】

公益財団法人日本習字教育財団 布施支部長
池田 美知子

応募作品が多く、筆文字に対する関心の深さを感じうれしく思いました。元気いっぱいの作品、正しく丁寧に書かれた作品、筆づかいが良く字形の整った作品、線の太細の変化や運筆のリズムのある作品、年齢が上がるにつれ将来への思いを込めて書かれた作品が多く、ワクワクしながら一つ一つ審査にあたりました。

書かれた文字や言葉は、観る人の心に響きます。筆文字だからこそ強く伝わるのです。これからも書き文字を日常生活に生かし、向上心を持って進んで下さい。